

◆引越し体験記◆

図書室移転の経験 ～北海道 オホーツクの街から～

野村 祐子

抄録：北見赤十字病院は、2014年12月に本館が開院し、その後、2015年6月には医局や図書室が入った北館をオープンさせました。本稿では、図書室開設までの道のりを写真を交えて報告いたします。

キーワード：図書室、引越し、移転

I. はじめに

北見赤十字病院は、昭和10年に開院。以来、約80年間に渡り「地域の中核病院」として人々の暮らしを支えてきました。

2014年12月には、「オホーツク地域に、救命救急・周産期母子医療・がん診療のより高度な機能を！」という地域のニーズに応じて、本館を開院しました。

そして、翌2015年6月には、オホーツク医療圏では初となる、歯科保健センターの役割を担う「歯科口腔外科」を併設する北館が完成。11月には、多目的ホールと救急ワークステーションを備えた北館増築棟が竣工し、12月、生まれ変わった北見赤十字病院がグランドオープンしました。

図書室は、昨年6月にできた北館の2階に位置します。すぐ隣には医局があります。

図1の左手側の建物が北館です。本稿では、図書室開室までの道のりを振り返ってみます。



(図1)

II. 移転日程

図書室移転の日程は、2015年6月7日と14日の日曜日、2週に渡って組まれました。

前日の6日(土)には、医局の引越しも予定されており、医局秘書を兼任している私も関わらなくてはなりません。「医局+図書室」という、まさしく強烈なダブルパンチにめまいがしそうでした。

もうその頃の記憶はあまりないのですが、しばらくの間、心落ち着かない日々を過ごしていたことだけは覚えています。

目覚ましもかけないのに、毎朝、4時には

YUKO Nomura

北見赤十字病院 総務課

TEL : 0157-24-3115 FAX : 0157-25-3013

tosyo@kitami.jrc.or.jp

自然と目が覚めるという、私にとって非常に珍しい経験でした。

Ⅲ. 移転までのあれこれ

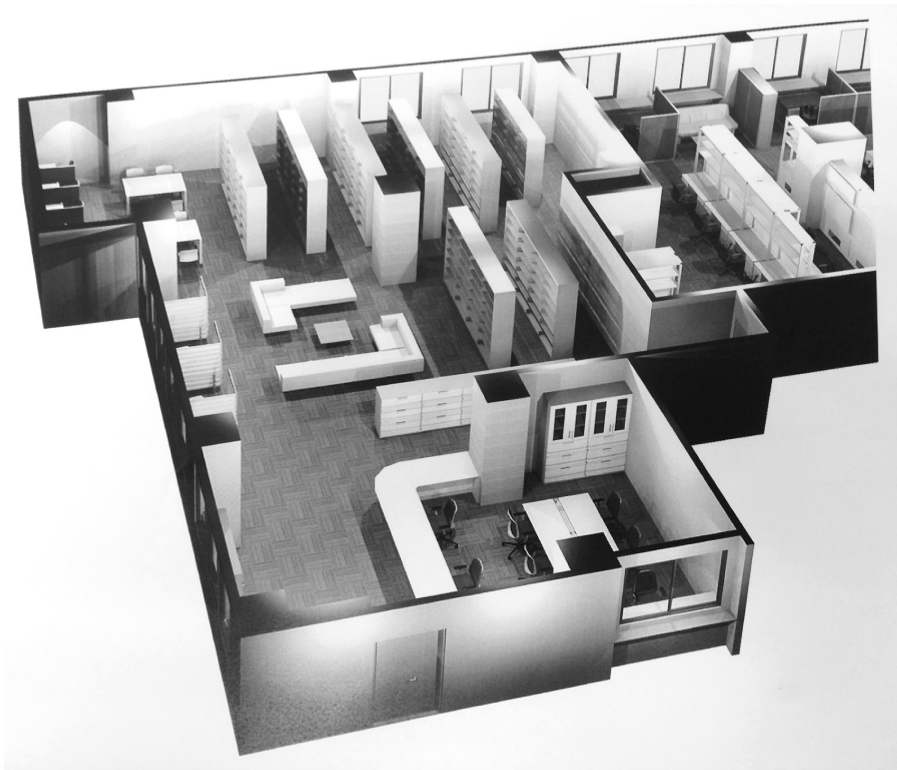
引っ越しに向けては、数年前より話し合いが進められており、私も初期のレイアウトや什器の選定にも関わっていました。意見や要望も出していましたが、そのうち会議への声が掛からなくなりました。「どうなっているんだろう？」と不安に思いながらも、目の前の業務で一日が終わってしまっていたため、あえて自分からアクションは起こさずに見守る姿勢でいました。

そんなある日、「医局が狭いから、図書室の面積を削る！」という噂が流れました。幹部の一人が「これから電子ジャーナルの時代

だから、図書室なんて広くする必要がない」という意見を出したようです。これにはさすがに困惑しましたが、医局の先生方に相談したところ、「そんなことは絶対にさせない」と言っただき、「図書室を狭くする案」は、一瞬にして撤回となりました。「持つべき者は、図書室の味方になってくれる医師だな」とつくづく感じた瞬間でした。

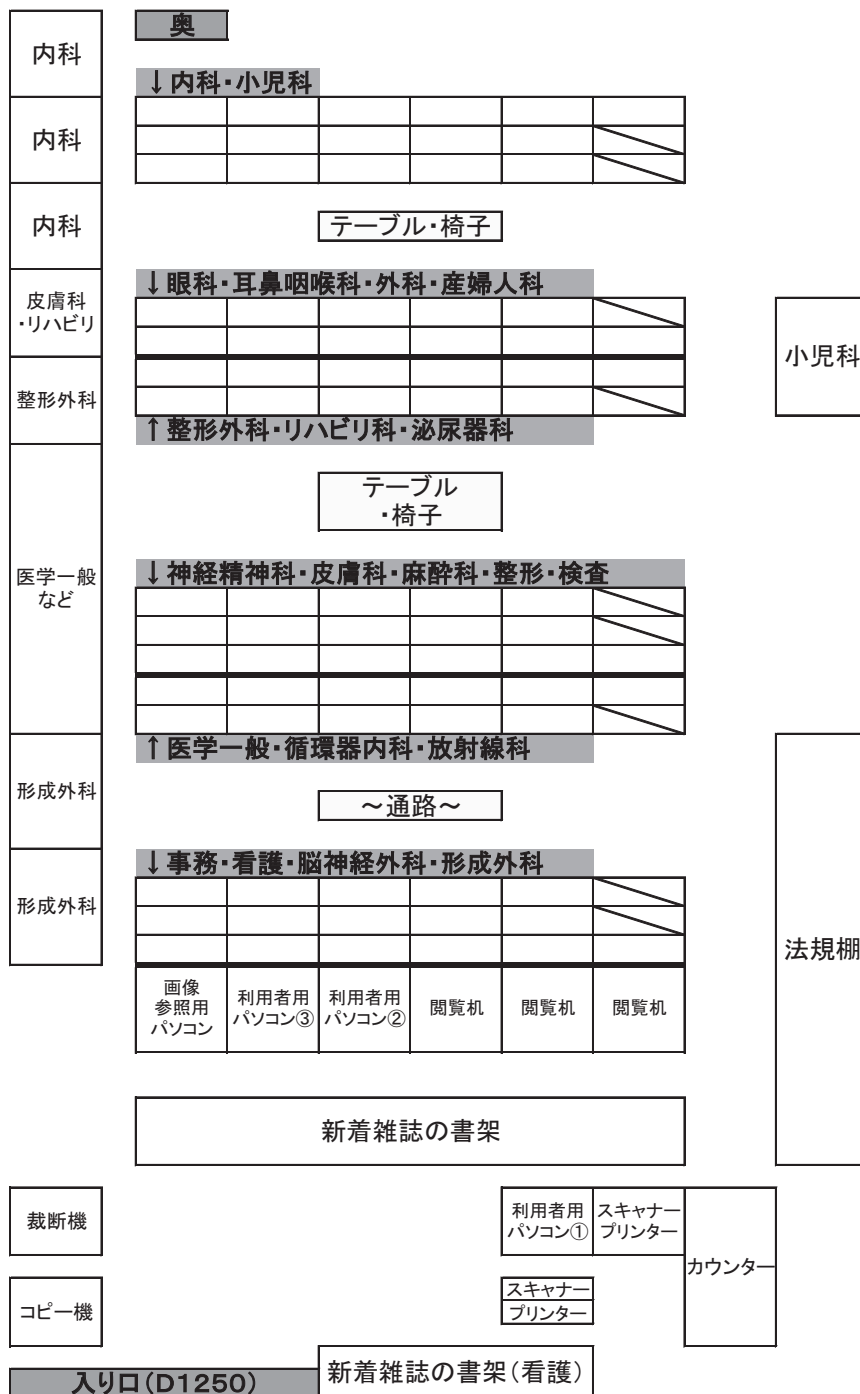
その後、図書室のレイアウト案が出され、私の手元に届いたのが、3月27日（金）のことです（図2）。一目見て、書架の少なさに愕然としました。すぐに書架が足りないことを現況の図書室配置図を見せて伝えました（図3）。

現状は、6段の移動式書架が81面。また、あちこちから寄せ集めてきて、左右のサイド



(図2)

図書室配置図 (平成27年6月までの旧図書室)



(図3)

IV. いよいよ準備（本格的に?!）

移転まであと4カ月という頃、やっと重い腰を上げて、「雑誌保管年数調査について」という調査用紙を各科・部（全22部署）に配布しました（図5）。

司書アシストのデータを利用し、各部署ごとに表を作成。現存の所蔵雑誌を「現状維持」か「全除籍」か「一部保存（保存希望する年数を記入）」を選んでもらいました（図6）。それぞれの「部長カラー」があからさまに出て、「すべて廃棄」から「すべて廃棄しない」まで、様々なケースがありました。こういった経緯から、当院の蔵書構築はかなり偏ったものになっています。

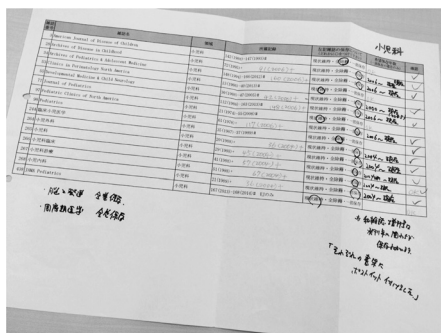
2月10日（火）に調査用紙を回したものの、すぐに反応があるわけもなく、提出された除籍対象の製本雑誌を少しずつ処理していました。

ただ、5月に入るとそう悠長にしている場合でもなくなり、「不要な製本雑誌は捨てて

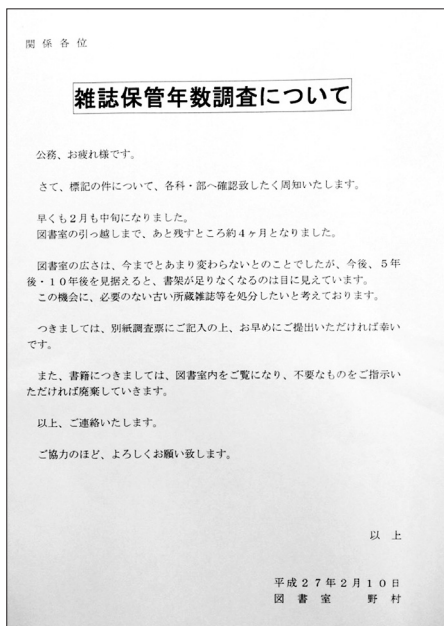
から、新しい図書室へ！」をモットーに掲げ、未提出の各部署の責任者にアタックして回りました。

そして、5月中は、ひたすら【除籍処理（バーコードでピッ）→ゴミ庫へ運搬】を繰り返していました。体力勝負の日々でした。

図7は、その一部分で、5月28日（木）の夕方に撮影したものです。実際は、この何倍も廃棄しています。バーコードリーダーは1つしかないのので除籍処理は一人でやりましたが、運搬は数人の業務員の方が手伝ってくれました。



(図6)



(図5)



(図7)

V. 新図書室の下見

移転に先駆けて、5月18日（月）、下見が許されました。書架も何も入っていない室内の写真は、ある意味貴重です（図8）。



（図8）

2週間後の6月2日（火）には、什器搬入の様子を見ることができました（図9）。一瞬のうちに室内が整えられていく様を見てみると、ワクワクしたものです（図10）。



（図9）



（図10）

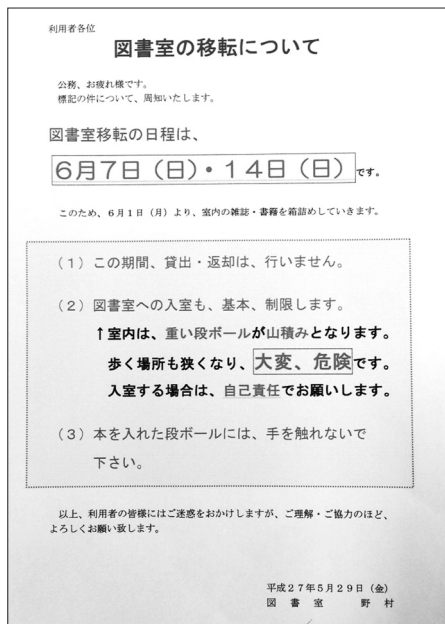
VI. ラストスパート！ ～2週間前～

さぁ。カウントダウンが始まりました。病院全体からも「待ったなし！」の雰囲気が漂いつつあります。

当初、「箱詰めも箱から出すのも病院側で行うように」と課長より言われていましたが、「基本ひとりなので、新図書室での配架は引越し業者をお願いできませんか？」と打診したところ、了承をいただきました。

5月29日（金）、「図書室移転について」の掲示をドアに貼りました。6月1日（月）より、室内の雑誌・書籍を箱詰めしていくというお知らせです（図11）。

このことを総務課の朝礼で話したところ、託児室の先生方が手伝いに来てくれることになりました。ひとりで作業することを覚悟していた私にとって、とてもありがたい「想定外」の申し出でした。



(図11)

10人いる託児室の先生方が、3～4人ずつ入れ替わり立ち代わりで来てくれたので、ものすごいマンパワーになりました。

図書室移転第1弾の7日(日)には、パソコンやコピー機、周辺機器などの移転を行いました。機械類がなくなり、利用も制限して少しすっきりした室内で、翌月曜日からは梱包にもより一層、精が出ました。

業者がわかりやすいように、新図書室の書架に1～105までの番号札を貼り、梱包した段ボールには「棚1-3段」といった指示のシールを貼付。この段ボールは、6日(土)に引っ越しを終えていた医局に積み重ねていき、こちらから新病院へ運んでもらうようお願いしました(図12)。



(図12)

VII. ほんとにラスト!

さて、第2弾の移転を控えた12日(金)。本の梱包はすべて終了しました。書架には何一つ残っていません(図13)。



(図13)

しかし、そこで終わりではなかったのです。図書室には、事務の各課が置き去りにしたもの(主にガラクタ)や書類など、片付けるべき箇所が多く残っていました。さらに自分の机の周辺も手つかずです。時間も定時を過ぎていて、さすがに手伝ってもらうのは気が引

けましたが、総務課のNさんと託児室のF先生に、「野村さん一人でやってたら、朝が来るよ。いいよ、私たち手伝うよ！」と喜んでいただき、甘えることにしました。

実際、3人でやって全て終了したのが夜中の12時半。1人だと、本当に何時になっていたのでしょうか？考えると怖いです。

片付け後の写真が、図14と図15です。「あんなごちゃごちゃした室内を、よくぞここまで片付けた！」とアラフィフ3人で自画自賛したことを懐かしく思い出します。



(図14)



(図15)

VIII. 新しい図書室

新しい図書室の写真です(図16)。そして、新旧図書室の比較です(表1)。面積が約2倍になり、閲覧席も増えました。何よりもうれしかったのは、目の前に大きな窓があり緑が視界に入ることです。旧図書室ではコンクリートに囲まれて仕事をしていましたので、雲泥の差です。



(図16)

	旧図書室	新図書室
場 所	西館2階	北館2階
面 積	122㎡	224.57㎡
閲覧席	7席	18席
窓	なし	あり
コピー機(白黒)	1台	1台
パソコン(利用者用)	4台	4台
パソコン(司書用)	2台	2台
プリンター	2台	2台
スキャナー	2台	2台
直通ファクス	なし	あり

(表1) 新旧図書室の比較

コピー機やパソコン、プリンター、スキャナーは、旧図書室からそのまま持って来たの

で変わりはありません。スキャナー2台とパソコン1台はかなり古く、あまり快適とは言えない使用状況です。

ファクスは要望していたものの、なかなか通りませんでした。旧図書室では、事務室が隣にあったので不自由はしませんでした。新病院では「図書室2階・事務室4階」という環境です。ファクスするたびに事務室へ行くのは効率が悪すぎます。

図書室では、ファクスは必需品です。文献や旅券手配、医師のお弁当注文などなど。「毎日10回は使います！ないとすごく不便です。時間の無駄です」と、少し大げさに訴えてようやく通りました。

表2には、蔵書数の比較を示しました。特筆すべきは、製本雑誌が3,000冊ほど減った点。引っ越しに際し、除籍したためです。時間も迫っていてあまり深く考える余裕もなく、今となれば、「少し捨てすぎたかも？」と後悔しています。

しかし、しばらくの間（10年か？20年か？わかりませんが…）棚の心配がないのでうれしい限りです。やはり人生にも書架にも、多少の余白が必要ですね。

IX. 気づいたこと、反省点など

何事も後手後手に回ってしまい、ぎりぎり

になって慌ててしまったのが、大きな反省点です。「もっと余裕があったら」と今だから言えますが、実際、当時の私にとってはこれが精一杯でした。

この「図書室の移転」という経験を踏まえて、気が付いたことを以下に記します。

1. 洗面台はあった方がいい。

図書室の仕事は、結構、手が汚れます。水回りは、あった方が便利だと思います。今からでも洗面台が欲しいぐらいです。

2. 写真はこまめに撮っておく。

写真はいろんな場面で撮っておくと、記憶をたどる際の道標となります。スマホでもいいのでどんどん撮影しましょう。

3. 記録としてまとめておく。

図書室の移転の経験は、誰もがするものではありません。とても貴重な体験なので、記憶が薄れないうちにまとめておくと思います。

4. 自分の勤務時間を記録しておく。

例え残業手当がでなくても、記録しておいて損はないと思います。

5. 赤十字の共同保管に留意する。

共同保管については何も考えずに除籍してしまい、申し訳なく思っています。反省点の一つです。

	旧図書室 (2015年3月現在)	新図書室 (2016年3月現在)	比較
和書	5,059冊	4,790冊	-269冊
洋書	233冊	213冊	-20冊
製本雑誌	8,893冊	6,151冊	-2,742冊
ビデオ・DVD	211本	190本	-21本

(表2) 所蔵冊数の変化

X. おわりに

今はなき、旧図書室があった建物です（図17）。昨年、取り壊しになっているので、もう写真でしか残っていません。



(図17)

移転から1年3ヶ月も経過した今、写真を探したり過去の書類を引っ張り出したりしながら、記憶をたどって原稿に起こしてみました。いま、あの頃の事を思い返すと、やさしい風に包まれたような“いい気分”になれました。

せっかく「図書室移転」を経験したのに、発表もせず原稿にも起さずただ怠惰に過ごしてきた私は、少し消化不良を起こしていたのかもしれない。

手伝ってくれた人、味方になってくれた人がたくさんいました。ラッキーに転んだ出来事もたくさんありました。そういうことを思い出して形にできたことは、とても有意義で今の自分の精神にもプラスに働いたと思います。

今回、このような機会をいただけたことに感謝します。ありがとうございました。

(2016年9月8日記)

参考文献

- 1) 小林美香子：図書室引っ越し顛末記。
日赤図書館雑誌 2012；19(1)：12-20
- 2) 病院図書室研究会デスクマニュアル編集委員会編。病院図書室デスクマニュアル。改訂版。旭川：日本病院ライブラリー協会；2008；23-36